

地域の皆様へ

皆さんは、『認知症』をご存知ですか？ 人ごとのように考えていませんか？
今こそ、地域で支え合うことが望まれています。一緒に考えてみませんか？

あなたは、彼らの「こころ」が見えますか？
あなたは、彼らの「さけび」が聴こえますか？
あなたは、彼らの「さびしさ」が感じられますか？
あなたは、人を愛したことがありますか？
あなたは、人のつまずきを許せますか？

「認知症になったらおしまいだ」

「あの人は認知症だから何をいってもわからない」

「認知症になるなら、先になったもの勝ちだ」

こんな話が、家庭や職場で人々の口の端に上るようになったのは
この国の豊かさが増し、家の暮らしや町の有り様が急速に変わり
人々の暮らしのテンポが速くなり始めた、1970年代頃からでしょうか。
認知症について、まだ、その原因やケアの方法が全くわからなかった頃
認知症は、ある意味「恐怖」の対象でした。

この間まで、元気に働いていたあのお父さんが、帰郷した息子の顔を忘れている。
料理が得意だったあのお母さんが、鍋をいくつも黒こげにしている。
あの頼もしかった夫が、情けない目で呆然としている。
介護する家族は、かけがえのない身内の変貌に
どんなにか、とまどい、苦しんだことでしょう。
知らず知らずのうちに、世間の目と有り様が、その苦しみに拍車をかけていました。

認知症の人は、自分なりに懸命に生きています。生きようとしています。
家族も家族なりに懸命に暮らし、懸命に介護をしています。
そして、認知症の人との最期の時期をよりよく暮らしたいと願っています。
認知症の人と家族の悲劇をこれ以上繰り返してはなりません。
家族も、親戚も、町の人も、さまざまな専門職も
みんなで、見方（ビジョン）と力をひとつにして
一步一步進んでいきましょう。

グループホーム アウルで、真剣に、彼らの不安や苦しみや不自由と向き合い、生活のパート
ナーとしてありたいとお考えの方、是非『アウル』にお越し下さい。「お互いに癒し、癒され
る関係でありたい」それが『アウル』での想いであり、願いです。

アウルスローガン

『グローバルに考えて、ローカルな行動を！』

(クリスティーン・プライデン著：私は私になっていくより)

ご連絡先：0142-21-1680

ホームページ <http://www.gh-owl.com>